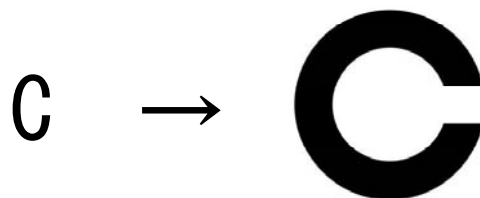


私立大学情報教育協会
平成24年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース

C-1 班 ランドルト環

1

C-1班 ランドルト環 の紹介



2

テーマ1

責任ある情報を公表するための
職員の役割

3

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(1)

情報を公表する意義、目的

1. 大学の社会的責任を果たす。
2. 地域の知の拠点としてのPR
3. 高校生の進路選択に必要な情報を提供し、
できる限りのミスマッチを防ぐ。

4

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(2)

情報公表の現状

国から指示されたデータは
公表されている。



しかし、高校生に必要なデータは
提供されていない。

→ 高校生が4年間とその後を、デザインできる情報
興味を持ってサイトにたどり着いた期待を
裏切る結果となっている。

5

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(3)

教育情報の作られかた

ニーズ・目的を把握せずに、部署ごとでデータを作っている
各部署で情報が分断されている。

6

テーマ1:責任ある情報を公表するための職員の役割(4)

公表する情報の作り方

例) 高校生が4年間とその後を、
デザインできる情報を提供する。

- ・授業風景公開
→大学のリアルな情報を提供する。
- ・ティーチングポートフォリオ
- ・負のデータも開示する。
負の状況に対し、どのような改善を行っているか
- ・データに関しては、数値の垂れ流しではなく、裏付けの説明を行う。

7

テーマ1:責任ある情報を公表するための職員の役割(5)

責任ある情報を公表するための 職員の役割についてのまとめ

ミッションを把握し、横断的に
集約・判断できる役割を担う。

各部署に対し、情報公表に対する
意義・理解を求める

8

テーマ2

学士課程教育の質的転換を図る ための職員の役割

9

テーマ2:学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(1)

教育の質的転換の必要性

目的・目標がある人以外は勉強しない。
目的意識が明確化されていないので、
学生自身に意識をもたせる必要がある。

「外部要因」

社会から求められる人材の変化
社会の即戦力としての要請が高まっている
社会の要請に応じて教育を変える必要がある
個別の技術ではなく応用的な能力
→社会人基礎力

「内部要因」

旧態依然とした講義内容

10

テーマ2:学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(2)

教育の質的転換のための準備

FDの研修に、教員だけでなく職員も参加する。

問題発見力・問題解決力・提案力を身につけ
教員に改善を促す。

授業アンケートの有効活用
評価アンケートを同学部(もしくは個々の単位で)先生方で
チェックしあうような制度を作る。

11

テーマ2:学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(3)

教育の質的転換におけるICTの活用

授業アンケートのインタラクティブ化
学生からの生の声を届ける。

ネット会議

FDの研修にネット会議を活用し、
時間や場所に縛られない開催や
幅広い人物の参加を実現する。

E-ラーニングシステムの活用

シラバスとの連携
例)シラバス内の小テストの実行



12

教育の質的転換に職員の果たす役割

シラバス作成について

シラバス作成時に講習会を実施し、教員と一緒に職員が混ざる。

シラバスに対する意識を変えてもらう、
重要なものであることを認識してもらう。
(ネットなどで広く公開するなど)

教員が使いやすい・使いたくなるシラバスの仕組みを作る

学士課程教育の質的転換を図るための 職員の役割についてのまとめ

教学面でも職員が積極的に関与する



教員側も、職員の業務を理解してもらう

職員と教員の相互理解を図る。

C-1班 ランドルト環 まとめ

① 大学を取り巻く環境

ユニバーサル化・グローバル化
従来型教育の限界・質の保証
社会人基礎力の養成 etc



大学全体の変革を、“見える”形で
求められている。

情報の公表



② 大学の情報公表

- ・ 国に求める情報 ≠ 大学が出すべき情報
- ・ 情報が欲しい人に、
欲しい情報が届いていない



- ・ ターゲットとニーズを把握し、
有効な手段で提供する。
(ex. 情報企画課)
(戦略)
- ・ 大学の特色化、
差別化を出す。
- ・ 情報 ↔ 広報 の違い。



③ 大学の情報公表 (例)

- 高校生 …… 大学の4年間 & その後を
デザイン出来る情報
- 保護者 …… 子供を預けることを安心できる情報
- ・ 手軽に入力できて、わかりやすい内容で、
一方的でないこと。
- ・ パンフレットの情報を超える。



④ 情報の公表と教育の質的転換

・情報の公表の充実は、
教育の質的転換に資する。



・教育の質的転換の充実は、
情報の公表の充実に資する。

〇環

19

⑤ 授業計画の充実

- ・科目のCP・DPとの位置付けの検証
“マニフェスト的”存在
- ・生きたシラバス
予習・復習としてのツール
- ・e-ラーニング・授業アンケートとの
組み合わせによる相乗効果
- ・職員の参画

〇環

20

⑥ 職員の役割

- ・情報の質を見極め、有効な公表の方法を考える。
- ・情報の公表について、大学内の意識を統一する。
→ **教職協働**：対等の立場で仕事を行う。
- ・有効なICTを身につける。
- ・情報の公表に関するPDCAを常に行う。

大学改革・新しい価値の創造

〇環

21